

# 地域の課題・難題になんでも挑戦！ 協働の地域づくり

宮城県丸森町

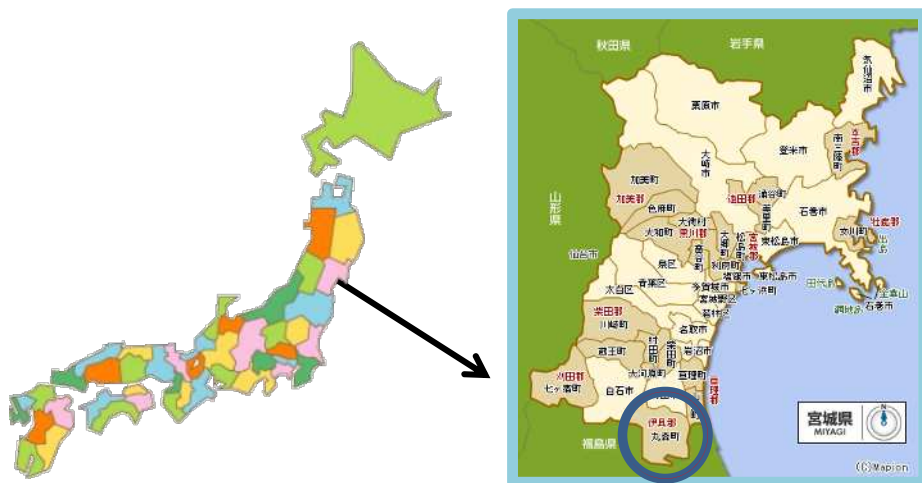
一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会

事務局長 吉澤 武志

# 宮城県丸森町筆甫（ひっぽ）地区

## 【宮城県丸森町筆甫地区】

宮城県の最南端。福島県伊達市・相馬市と境を接する。かつて伊達政宗が領内で一番始めに「検地」をしたことから「筆の甫（ひっぽ）」となったと言われる。



宮城の南端「丸森町」



福島県につきでる「筆甫地区」

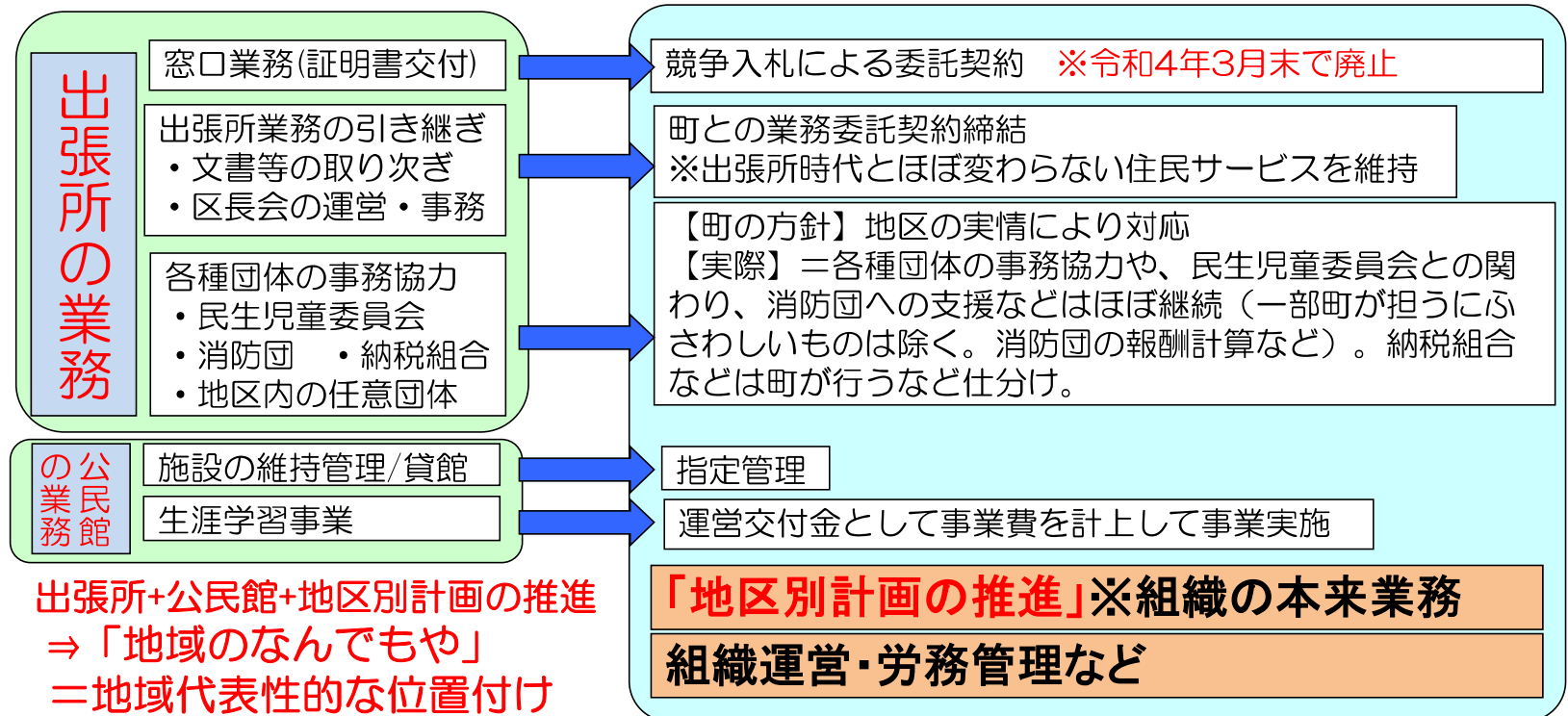
## 【丸森町筆甫地区】基礎データ（数字はR5.9.1現在）

- 標高300～400mの高地に位置
- 町の中心部まで山道を車で25分
- 面積 約74km<sup>2</sup>（※野球場約6000個分）
- 人口433名（※60年前約3000人,15年前1000人）※町人口約12,000人
- 高齢化率 62.36%
- 中学校はH19.3月閉校、小学校もR4.3.31閉校

## 【宮城県丸森町「住民自治組織」の主なあゆみ】

- 平成13年度～ 丸森町内8地区（旧町村単位）で『地区別計画』策定
- 平成19年度 各地区全住民で組織する「住民自治組織設立」（準備期間）
- 平成22年度 各地区公民館を首長部局に移行。「〇〇公民館」を「〇〇まちづくりセンター」に改称し、各地区住民自治組織が指定管理を開始。「より良い地域づくりを進める組織」として活動開始
- 現在 現在14年目 ※指定管理3年毎に更新の5期目

## まるもり型住民自治組織の特徴



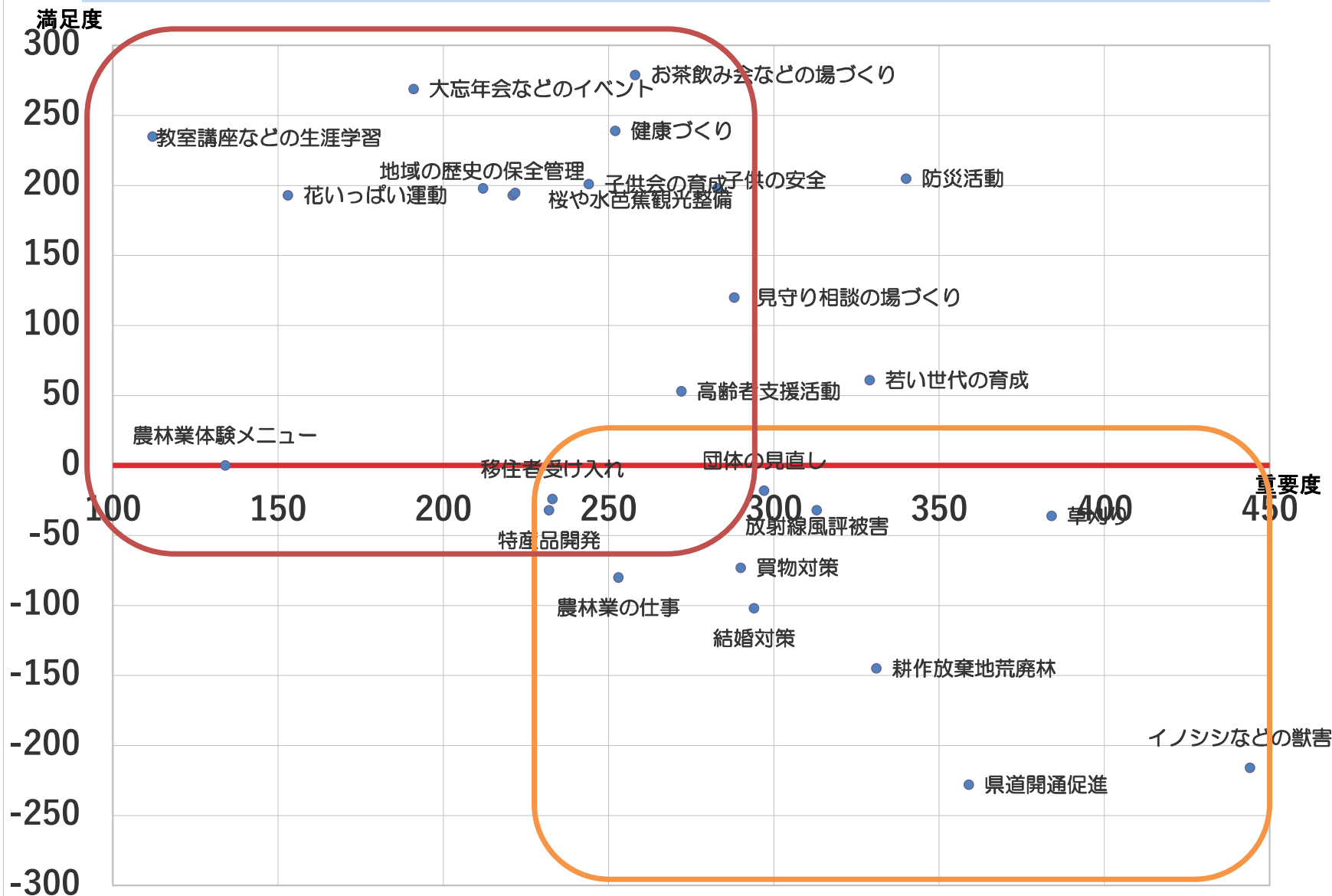
# 地域運営組織が取り組むこと

## ○自分たちの暮らしを良くすること

- ・安心して暮らせる地域
- ・活気があって元気な地域
- ・仲間がいて楽しい地域
- ・仕事が続けられる地域

☆行政の下請けでも下部組織でもなく、  
自分たちのための自分たちの組織

# 丸森町筆甫地区重要度×満足度 (丸森町筆甫地区全住民アンケートより)



# アンケートから見える 筆甫地区の課題と住民ニーズ

## 【もう十分頑張ってきたこと】

○イベント・生涯学習・歴史・植栽・防災など  
⇒満足度高い＝現状維持＋ちょっと手を抜く。

## 【これから頑張らなくてはいけないこと】

○イノシシなどの農作物への被害  
○仕事づくり×農地・山林の維持と活用  
○人づくり（若者世代・担い手育成）  
○高齢化・高齢者世帯の増加に備えた活動  
（見守り・生活支援・草刈・買物対策など）

## 【今ここで暮らす住民のしあわせを考える取り組み】

安心安全/暮らし/不安不便解消/健康/仲間/生きがい

# 地域課題NO1 【イノシシ捕獲大作戦】



## ◎筆甫地区のイノシシ対策

※イノシシの被害により、農家の生産物はもちろんのこと、自給用（おすそ分け用）野菜を栽培する高齢者の生きがいにも大きな影響を及ぼす課題

●地域運営組織が箱罾を自ら作成し、地区内に20数機設置（設置は免許所持者）。猟友会筆甫支部に「見回り・えさやり・止めさし」などを依頼。箱罾の材料費は自己資金。地域づくりの運営費をもとに経費を支出。

＝地域住民の最も強い願いに対してアクションを起こすことが大切。  
地域運営組織とは何なのか、地域運営組織が「誰のニーズ」で動くのかを示すことが大切



# 高齢者への声かけ・お助け隊



## ◎高齢者暮らし支援

※見守りと暮らし支援の体制構築

●今まで民生児童委員が中心に行われていた「見守り」を地域全体のアクションに。また地域運営組織が地域人材を派遣する「困りごと解決」の仕組みづくりを構築。

＝支えられているという体制や高齢者の困りごとを迅速に地域で対応することで「暮らしの安心感」を生み出す。

※「暮らし支援」のあり方については秋田県横手市の雪かきなどの「共助組織」の事例を参考  
**先行事例をカスタマイズ**





# 地域の宝 ひっぽのへそ大根ブランド化



◎「ひっぽのへそ大根」を通じた地域の誇りと魅力発信

「ひっぽのへそ大根」は筆甫のソウルフード。ほかにはない武器。体験イベントや地域の魅力を外部発信していくときに大活躍

※人を呼びこむツール

へそ大根を守り育てていくことで、生産者にとっては生産意欲の向上や所得の向上につながる。筆甫地区にとっては地域の魅力のひとつとして活用。

生産者は一部の人でも、「地域の自慢の宝」として地域全体の誇りづくりとなる。



# 買物対策&地区内で経済をまわす仕掛け 「ひっぽのお店ふでいち」



## ◎ひっぽの「小さな拠点」

- 平成30年5月20日オープン
- 買い物弱者対策 → お店と移動販売
- 所得向上 → 直売所・交流スペース
- 地域の新たな「顔」をつくる。自分たちの暮らしを自分たちで守り育てるためのチャレンジ。

☆アンケートや各種会議において必要性が高まったことから事業化

## ◎資金調達

店舗部分（総工費）1000万円

- 町補助金 約280万
- 住民出資 約220万
- クラウドファンディング 300万円
- 地区外応援資金 約200万円
- 民間助成金 約300万円

計1300万円程度の資金調達を実施

移動販売（車両等）400万円

- JTの助成金

# 「ひっぽのお店ふでいち」 移動販売



## ◎ひっぽの移動販売事業

### 買い物と見守り

- 平成30年9月からスタート
- ※7～8月は地区内のルート選定。車両選定を行い、9月から試運転を実施。
- 訪問先…地区内にて日中高齢者が家にいる場合はほぼ全世帯を回り、高齢者の方が元気に暮らしているか「安否確認」も同時に実施。何か異変を感じたときは、区長や民生委員に報告をするよう仕組み化。
  - 移動販売が地域に浸透
    - 1週間に1回は各地区を回るようにルートを決めているため移動販売は地区内に浸透。住民からの注文なども受けてニーズ対応ができるようになってきた。

# ガソリンスタンドの事業承継

◎ガソリンスタンドがなくなったら暮らし続けていけるか？

平成29年に筆甫地区唯一のガソリンスタンドが廃業検討。

⇒地区内で協議を重ね、住民組織が事業を承継することに決定。30年9月より事業開始

- ・店舗経営は現状プラスで推移
- ・職員3名雇用確保
- ・地域の中のライフラインの確保

**組織の成長が事業幅を広げる**



**宮城・丸森 筆甫地区 唯一のGS 住民組織で守ります**

地域で給油所の減少が懸念、ガソリンスタンド(GS)過剰地」が全国的な問題と分ち、宮城県丸森町筆甫では、住民自治組織「筆甫地区振興連絡協議会」が地産で1軒だけのGSを運営している。経営会社の社が自身の高齢化と廃業となるを避けるため、協議会へ事業承継した。山間地のライフラインを地域一体で守っている。

東北経済産業局資源・燃 協業は昨年5月にGS料裡にまで「住居組織」の運営を始めた。元は引CS運営を目的には別、地産(社長引退)に入入るが、東北では珍しく「1」が約40年前創業だめ」といふ。GS、ガソリンのほか、地筆甫地区の全住民づく 元の建設業者が重機

使う軽油が販売の手、冬地の引油販売も手掛ける。引地と中心を築く入運営していた。

引地と中心を築く入運営していた。

も、一昨年、「1」までを社を維持される分がたない。廃業となればは迷惑が掛かると協議会へ事業承継を提案した。

筆甫地区から町中心部までは、山あいの道を通って約10、町民バスや約型垂合いタクシー運行しているが、本数や訪問頻度もCS業務を継ぐ。

一機社法入化、CSの運営に乗り出した。土地・建物も借り受け、従業員はそのま雇用、引地入もCS業務を継ぐ。

追いもあつた。筆甫地区では昨年、丸森バス製造大の企業がスカイラーの建設を始めた。協議会のCSが現場をまわす重機用引油を供給している。引地入は「経営安定の状態を維持させた」と胸をなで下す。

15年前まで1000人を 事務局長は「スタンドの確保をいた筆甫地区の人口、保で道の安心確保を」は3月現在で600人 た。暮らしのなかでできる高齢化率は52・3%と高 ことを、地域で育ててい、過疎化進むが、哀れ、張りた」と話している。

協議会に事業承継されたこと、食の引地さん(左)が引地と協議会の中心部

**経営者高齢化、事業引き継ぐ ライフライン 安心確保**

阿武隈川 丸森 役場 宮城県 丸森町 筆甫地区振興連絡協議会GS 福島県 筆甫地区 丸森町

# 移住推進リスタート



## ◎震災でとまった移住推進を地域でリスタート

- ・「移住推進部会」を新設し、ひっぽ暮らし体験や移住推進パンフレットの作成。

(※移住推進部会は令和5年からは地域振興部会と一体化した運営を実施予定)

- ・移住者も増加

- \* 令和2年度 1名
- \* 令和3年度 4名
- \* 令和4年度 1名
- \* 令和5年度 2名 (※予定)

## 【地域運営組織による営農事業】

### ◎農地の荒廃がより一層進む

#### & 台風被災の農地の復旧

・これまで中山間直接支払い制度にもとづく「集落協定」や個人農家の頑張りをお願いをしてきたが、限界が近づく。

→地域運営組織内に「営農部門」を設置し、稲作を中心にした営農を開始

- ・令和3年度 1町歩  
令和4年度～ 1.7町歩

⇒今後も地区中心部の道路沿いを中心に農地を利用していく。

収穫した米は店舗での直販や農協出荷

- ・地区の酒「筆の甫」の酒米として利用

※このまま一社で営農をしていくか、別組織を作るかなど検討中。



# 【へそ大根のさらなるブランド化】

## ◎ 「ひっぽのへそ大根」

農協出荷が中心だったへそ大根  
→協議会で買い取りと販売を行う。

- 生産者話し合いによる生産方法の一律化
- 大根収穫援農&へそ大根づくり体験会  
(※県なりわい課による援農事業)
- 集団による生産のスタート  
(※集落協定による生産)
- パッケージの作成
- レシピ集作成
- へそ大根フェアやクックパッドでの料理コンテストを実施  
(※東北農政局 山村活性化対策事業)
- すぐに食べられる商品開発  
&加工機械の購入(真空包装など)  
(※丸森町特産品開発事業)



# 丸森町筆甫地区の 住民自治・住民主体の地域づくり

○自分たちの地域は  
自分たちで守るのは当たり前

○自分たちでできることは  
なんでもやってみよう



# 株式会社ホップジャパン

こと・ひとが循環し、みんなを笑顔にする  
フルフラー



HOPJAPAN

Bring a little  
joy to your life.



**2011年4月**  
福島原発事故発生  
準備区域に指定

**2014年4月**  
避難指示解除

住民の帰還が  
の間避難して  
の賑わいは戻

復興の牽引役



震災後ほぼ使われなくなった  
「グリーンパーク都路」の一部  
設をフルワリーに改修、復興の  
点として新たなスタートを切る



# Brewery



# Hop Garden Au



有

用

麦畑

ディスクゴルフ



養蜂



ロッジ

・アルティメット



赤そば畑



-

マ





常夏の  
高原

グリーンパーク  
遊びに行こう！

つながり  
マルシェ

遊んで！食べて！やっ  
休んで 飲んでリフレ

「つながりマルシェ」ってなに  
美味しいものやかわいい雑貨、クラブTシャツ  
いろんな「モノ」や「ヒト」とつなが

毎月第1-3日曜日





0次産業化

1次産業 ホップ農業

サステナブル+ブルワリー

サステナブルワリー

use

のでも再活用

2次産業化



Br

2次

クラフトビ

農家直結生

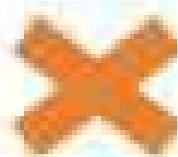
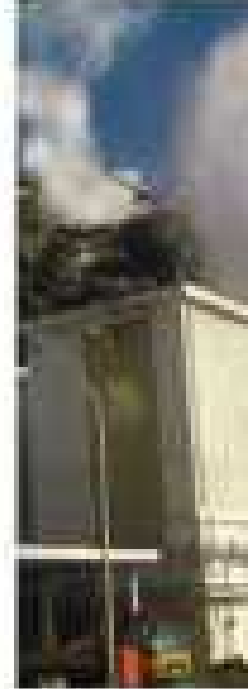
クラ

3次産業 楽しむ

Drinks





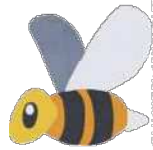


**環境に対する想**



0次産業

採蜜し緑肥にする



2次産業

産



3次産業

ミード（蜂蜜酒）



# Local Eco-System Ideal Park

工業団地を造りどこでもいいから立地してもらい、〇〇人というハードありきの従来型地域活性化の手法ではなく、みんなに共感した人や企業が集い、ハードができていき、新たな価値を生み出す。そんなローカルエコシステム「LESIP」を目指し

Activity

循環

Agriculture



Food

Drink



HOP GARDEN BREWERY

HOP GARDEN LODGE

HOP GARDEN  
CAMP FIELD  
TEL: 097-1100

スポーツ広場  
SPORTS FIELD

アルティメット  
競技場  
ULTIMATE FIELD

藤の花  
WILSTERLA FLOWERS

池  
POND

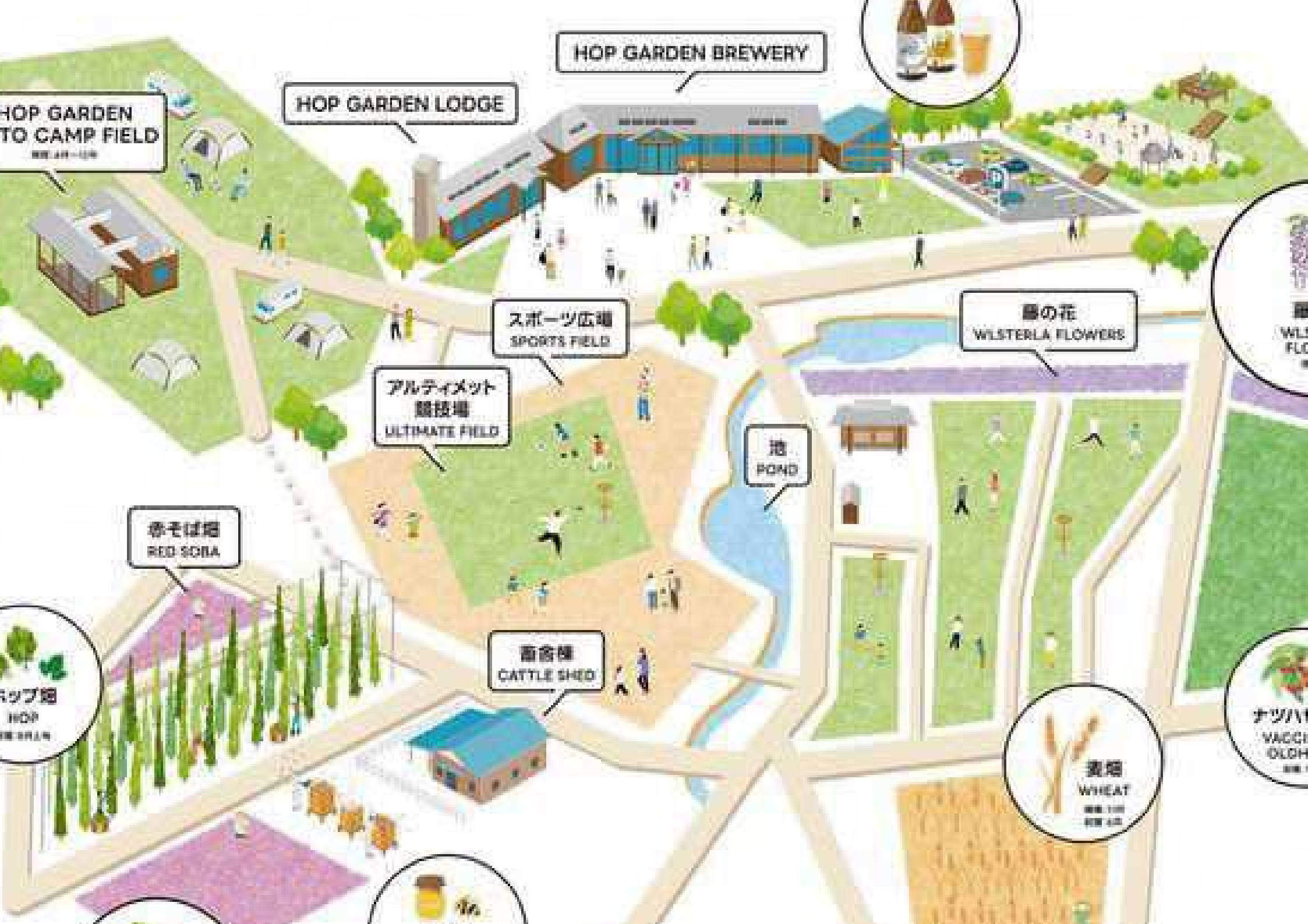
赤そば畑  
RED SOBA

畜舎棟  
CATTLE SHED

ハップ畑  
HOP  
FIELD

麦畑  
WHEAT  
TEL: 110  
TEL: 110

ナツハ  
YACHT  
OLD



株式会社ホップジャパン

将来のビジョン



HOPJAPAN

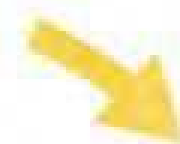
Bring a little  
joy to your life.



0次化



食物残渣を  
たい肥に



1次産業

米・野菜



6次産業

自家栽培麦と野菜と  
チーズのピザ



0次化

麦芽カスと糞で発酵  
↓  
野菜栽培



動物による  
産業の循環



自家栽培麦と  
ホップのパン



ふれあい牧場

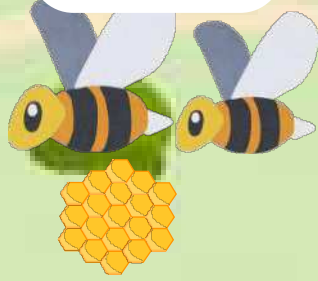


農業の循環

棚



養蜂



麦畑



野菜畑

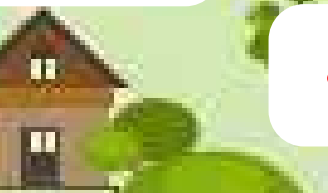


田んぼ



ディスクゴルフ

ロッジ



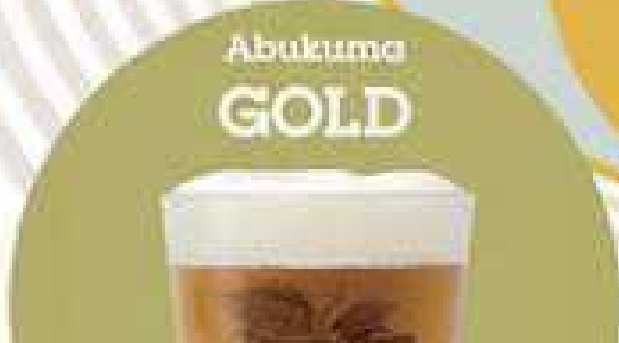
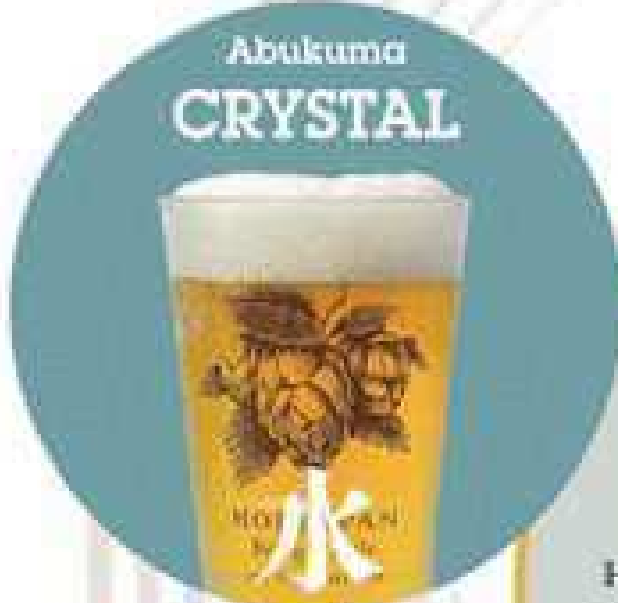
・アルティメット

ヤギ牧場

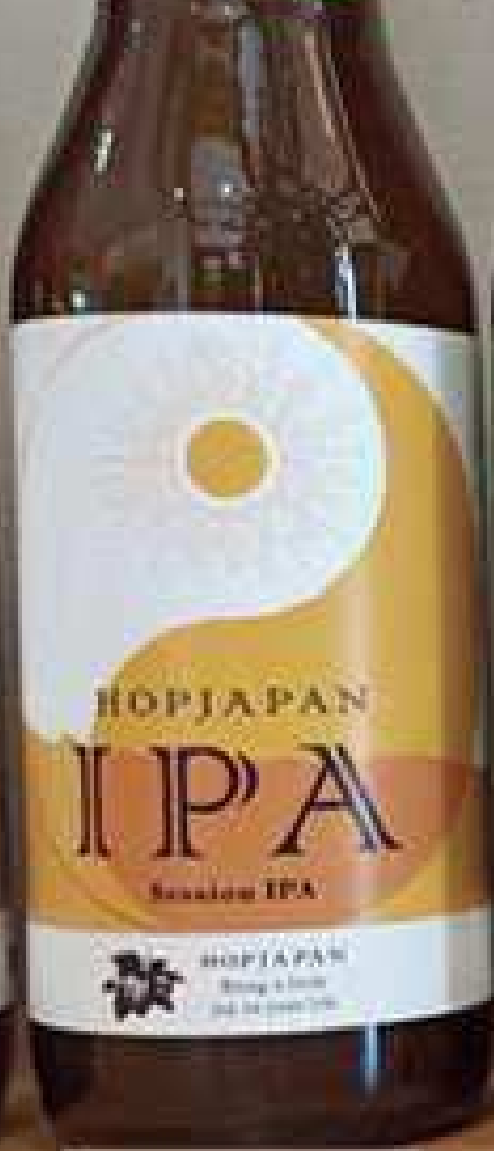


赤そば畑









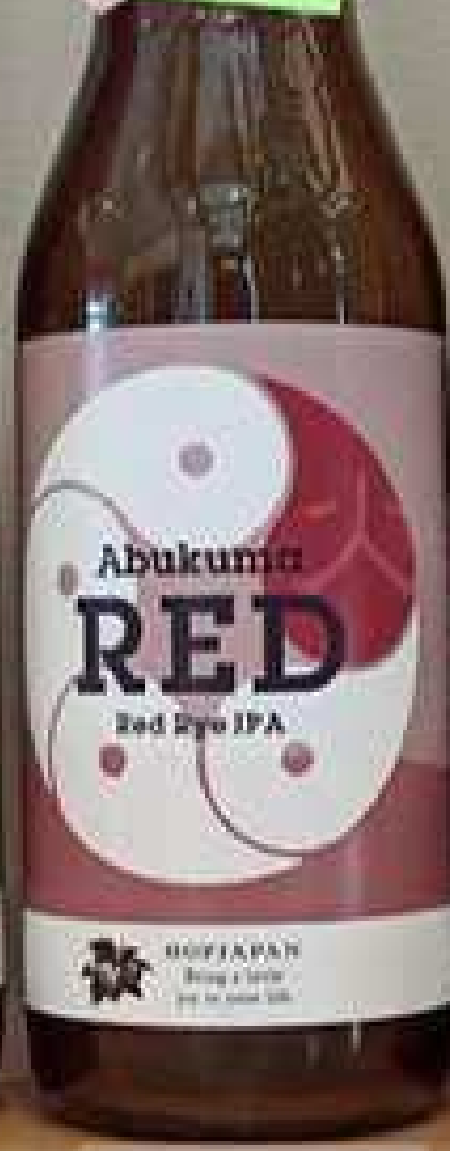
HopJapan  
IPA

苦みを抑えつつ  
ホップのフル



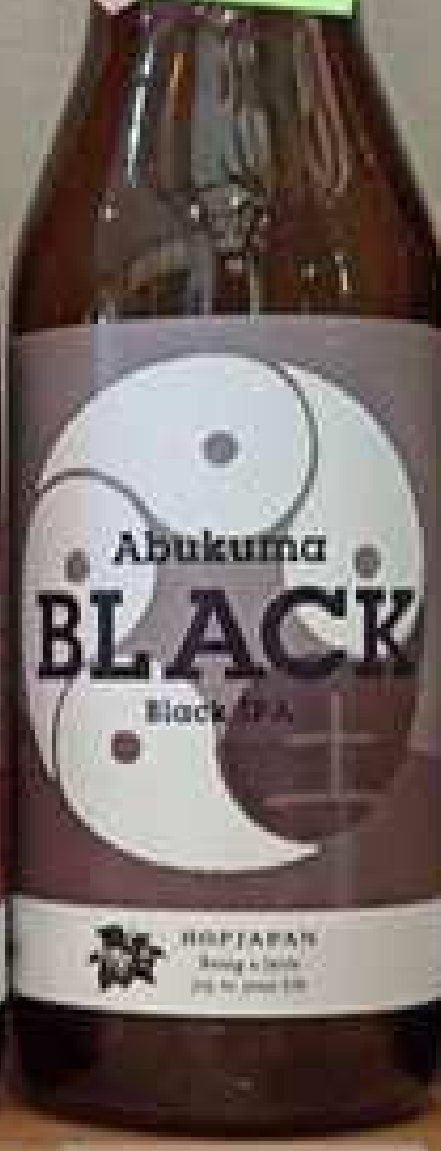
Abukuma  
GREEN

田村市産生ホッ  
プがはをこんが



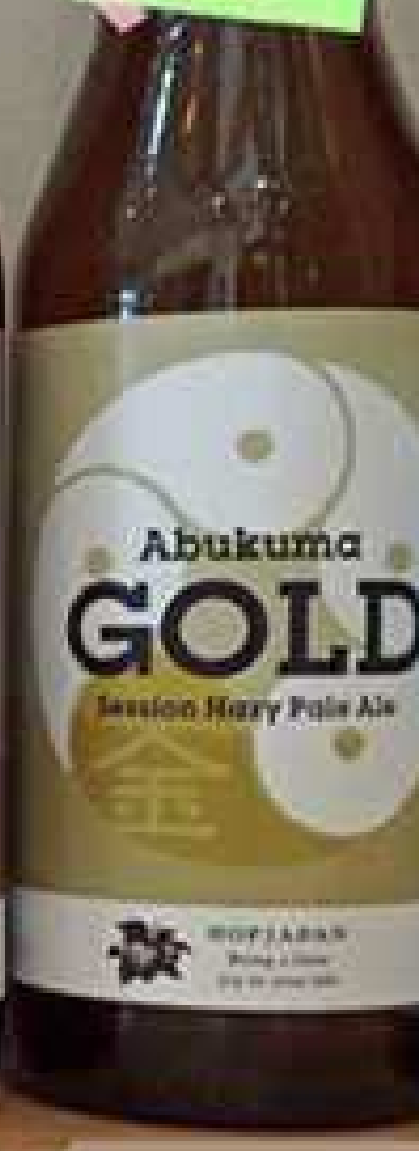
Abukuma  
RED

モルトの強い香  
りと度数強めな



Abukuma  
BLACK

芳醇なコクに負  
けないトロピカ



Abukuma  
GOLD

ホップの強烈な  
トロピカル

にある全のものを自分の家と庭そして家族として  
す。

タオルを使う時、思い出してください、地球人であることを。  
捨てる時、思い出してください、地球人であることを。  
適量ですか？

ける風を吸って、鳥の声を聞いて、感じてください、地球人であ  
呼吸する時、真っ赤な夕焼けを見る時、満天の星空を見る時、楽  
。

感謝してください、地球に。

性も女性も、肌の色も、区別する必要はない、だって地球人だも  
。

ありがとうございました。



たび「ホップジャパン」(テレポート...

HOP JAPAN

Bring a little  
joy to your life.

# デジタル村民とは始める 「集落存亡」をかけた挑戦

～NFTを含む山古志住民会議の取り組み～

## 旧山古志村の紹介

- 新潟県中央部に位置する中山間地域、世界有数の豪雪地帯
- 2005年4月1日に長岡市へ編入合併
- 14集落 / 391世帯 / 人口812人 / 高齢化率55.9%
- 主な地域資源：錦鯉、牛の角突き(重要無形民俗文化財)、  
棚田・棚池の景観 (日本農業遺産)



# 課 題

## 存続か消滅か、岐路に立つ限界集落「山古志」

- 2004年中越地震壊滅的な被害 ▶全村避難
- 長岡市への市町村合併 ▶山古志村消滅
  - ▶震災・市町村合併を契機に住民主体の地域づくりの機運は高まる
- 震災当時2,200人 ▶現在、約800人
- 保育園の閉鎖、小中学校複式化、診療所機能縮小、公共交通の撤退
- 集落維持機能の低下 ▶山の荒廃、共助体制の弱体化



NFT（非代替性トークン）を、  
「デジタルアート×電子住民票」  
として活用できるのではないか。

仮説①\_ NFTを接点とした共同体の形成

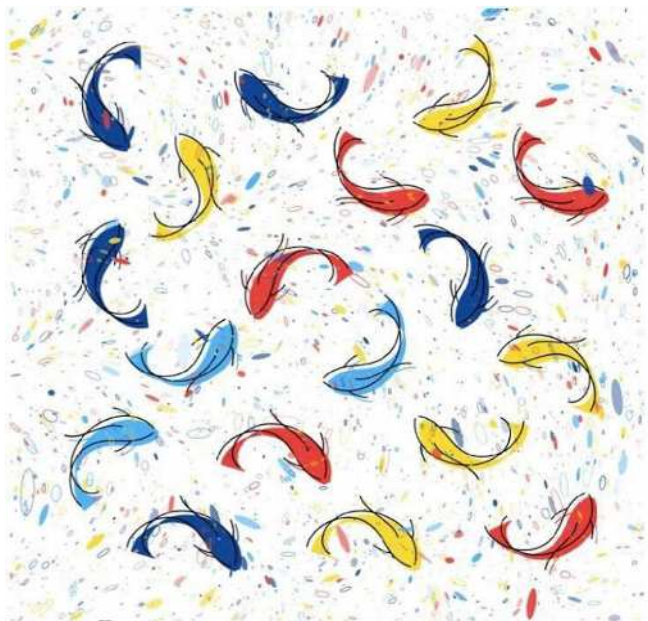
仮説②\_ ネットワークで世界中から知恵、資源を集める

仮説③\_ 独自の資金調達

# 『NishiKigoi NFT』の発行

## NishiKigoi NFT

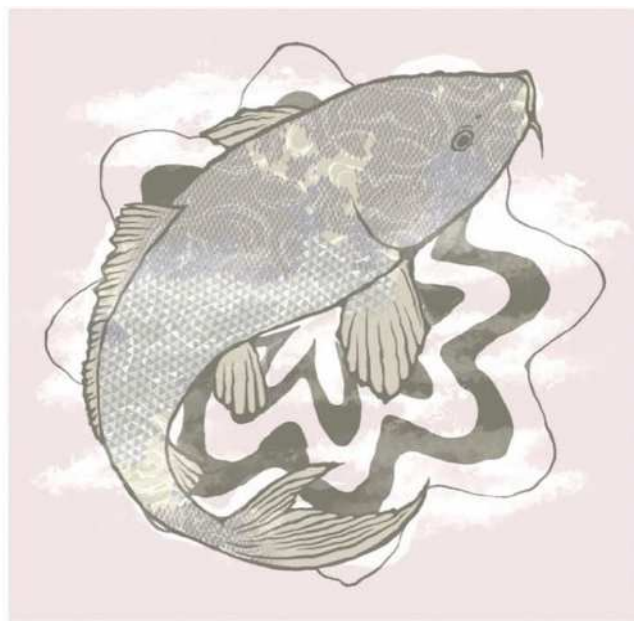
- 山古志発祥の錦鯉をシンボルにした「デジタルアート」
- 山古志地域の「電子住民票」



Colored Carp



Okazz / おかず



Generative patterns "NISHIKIGOI"



raf



Carp and Seasons



ykxotkx

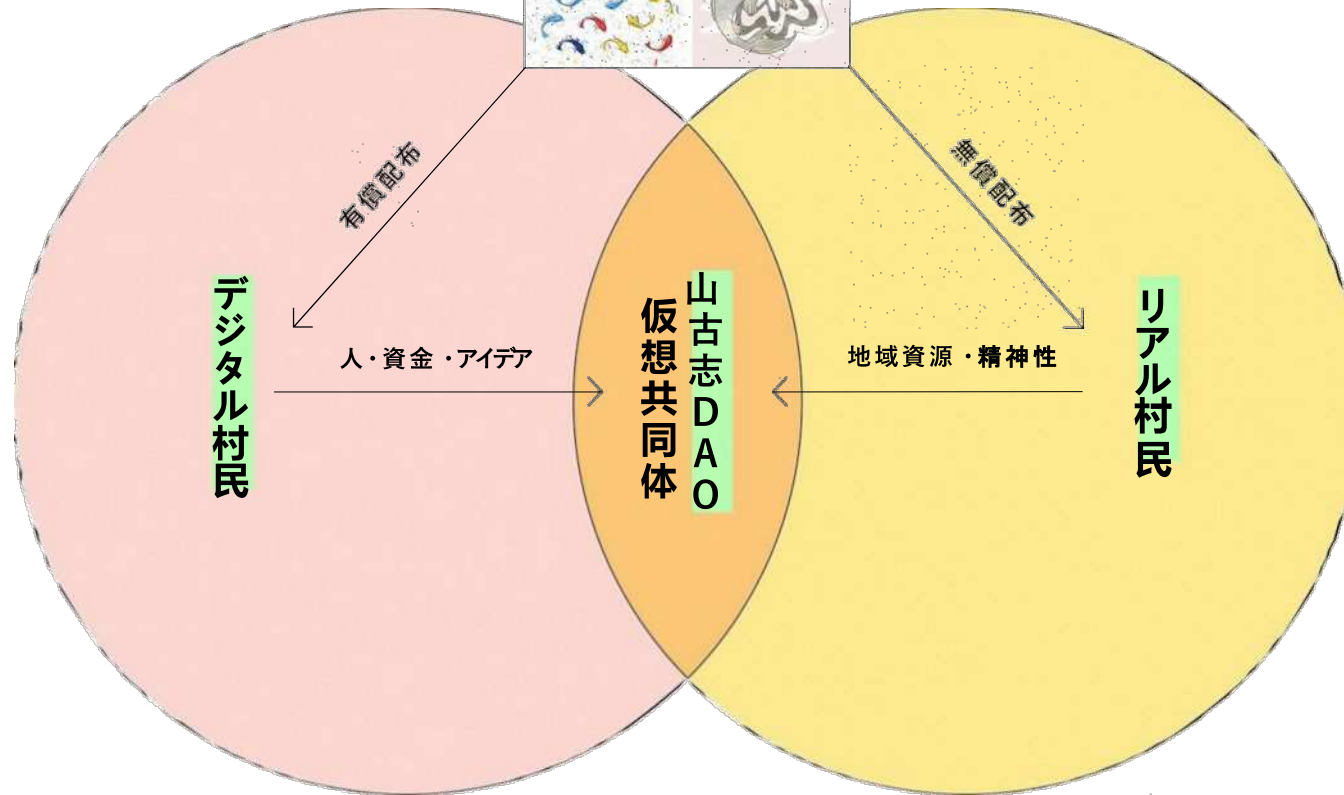




# 仕組み

## NishiKigoi NFT

アイデンティティ/ コミュニティへのアクセス権  
ガバナンストークン / デジタル資産



自然資源や錦鯉、牛の角突きをはじめとする独自の文化を保持し続けるリアルと、物理的な制約をこえて無限に広がる仮想空間が組み合わさることによって、山古志DAO(仮想共同体)は形成される。NFTをツールとして採用することで、複数のユーティリティを包含しつつ、新しい関係性のデザインを可能としている。

## 結果①

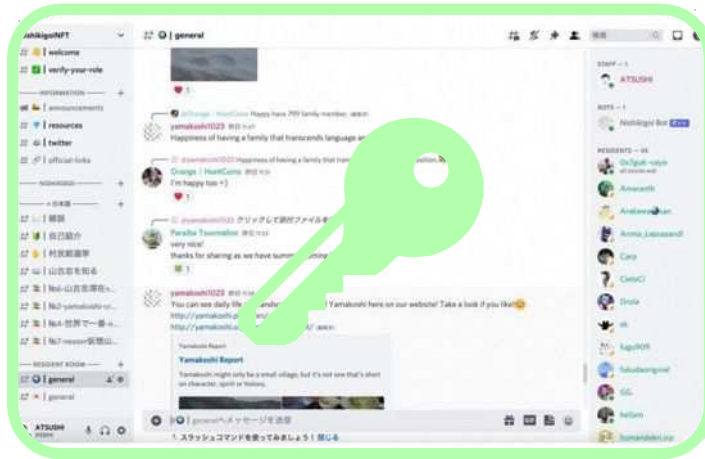
NFT発行数 <b>2,787</b>	デジタル村民 <b>1,587</b>
総取引量（二次流通を含む） <b>118</b> ETH	フロア価格 <b>0.03</b> ETH

- 第一弾セールスの40%、第二弾セールスの25%が初めてNFTを購入
- 第二弾セールを終え、総発行数：1,500
- デジタル村民（NFTホルダー）の数が、リアル山古志村民数を超える
- 購入者は、日本を中心に世界各地から
- 初期売上：41.4ETH / 14,490,000円（1ETH=35万円想定）
- 著名な方々もNishiKigoNFTを購入
- 第三弾セール2023.8.24より開催中！



# NFT がもつユーティリティ

## ① コミュニティへのアクセス権



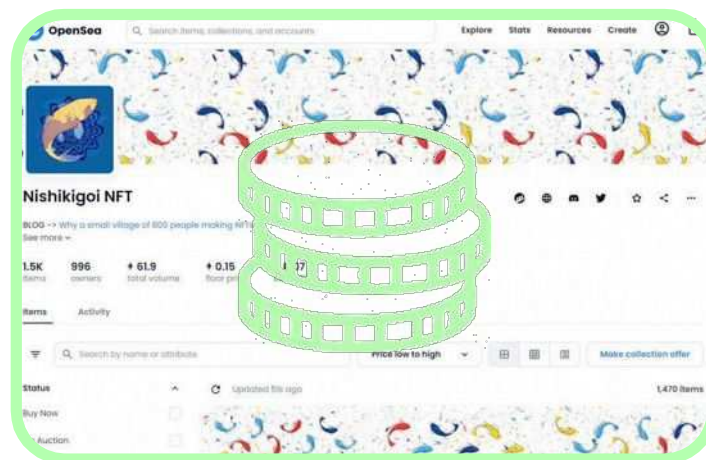
## ② アイデンティティの象徴



## ③ ガバナンストークン（投票権）



## ④ デジタル資産



## 具体的な取り組み①

### リアル山古志住民にNFTを無償配布



○地域のお父さんお母さん方がウォレット開設し、NFTを保有したり、Discordに参加

### 「山古志デジタル村民」総選挙の開催

山古志デジタル村民 総選挙  
デジタル村民による、山古志のための「アクションプラン」を募集

立候補 (応募) 資格  
山古志デジタル村民

応募締め切り  
2/18 (金)

投票  
2/26 (土) ~28 (月)

当選プランは、第1弾セール売上の約30% (約3ETH) を活動予算として付与  
👉 約1.5ETH×1 約1ETH×1 約0.75ETH×2

申し込み <https://forms.gle/nhgySJ7cRdfjkqze9>

- デジタル村民に一部の予算執行権限を付与
- 山古志住民・デジタル村民による投票



## 具体的な取り組み②

### リアル山古志で実施されたデジタル村民のプロジェクト

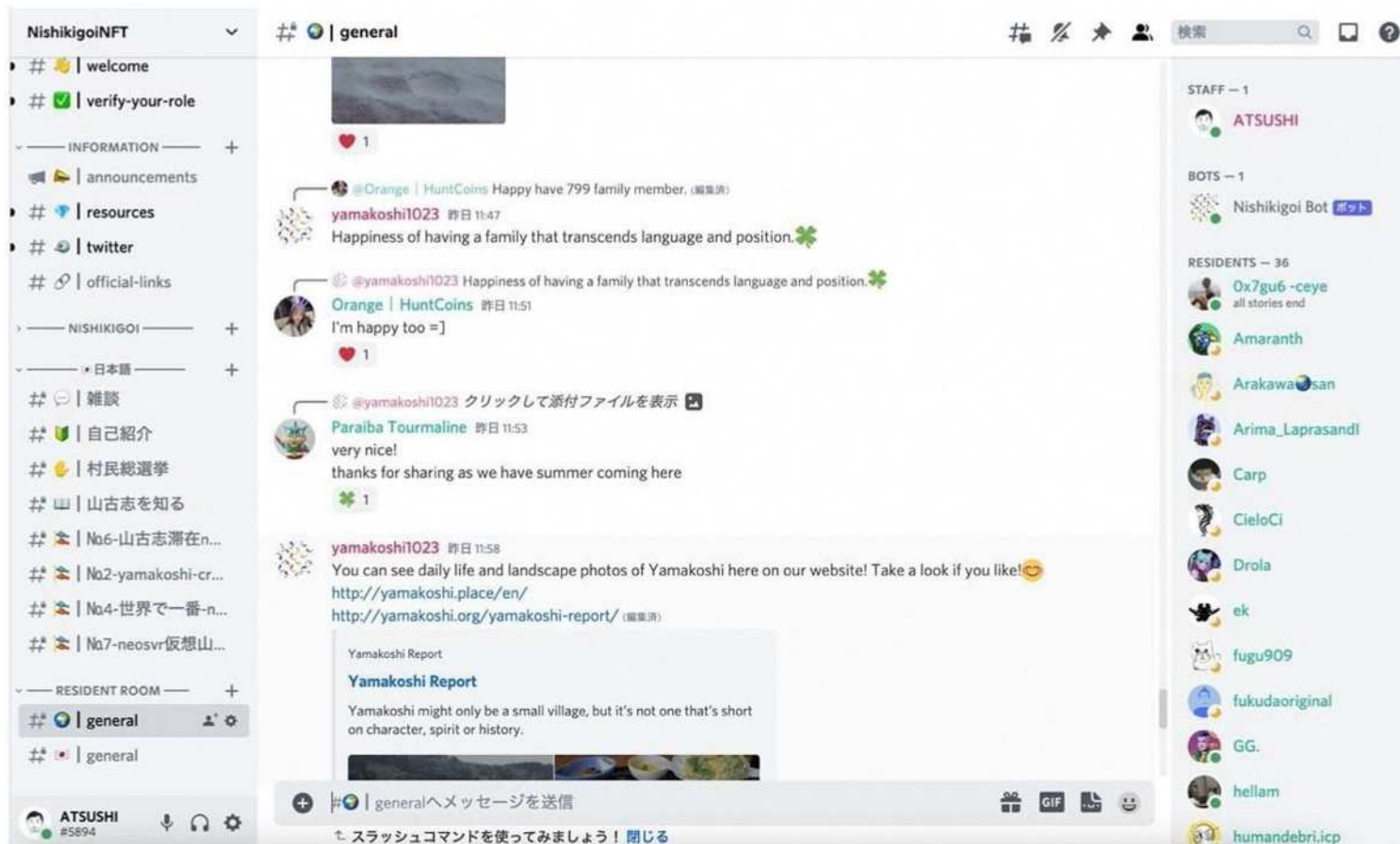


- デジタル村民の帰省（延べ約300名）
- 総選挙で選ばれたPJに取り組むデジタル・リアル住民
- リアル山古志の各種PJにデジタル村民が参加・応援



## 具体的な取り組み③

### 『Discord』を使ったコミュニティ運営



○国内外のデジタル村民、リアル山古志住民が集う

○総選挙で選ばれた各プロジェクト、リアル・デジタル住民のアイデアをディスカッション

# ネオ山古志村(山古志DAO)の 自律的で持続可能な運営を目指して

## Nishikigoi NFTの進化

### 日本各地の文化や地域の営みの存続させる プラットフォームへ進化

Nishikigoi NFTがハブとなり、互いに支援し合うプラットフォームへと進化。山古志が「web3 x 地域 / ソーシャル」のムーブメントの震源地となり、結果的に山古志DAOの持続性に寄与できる状態を目指す。

プラットフォームの象徴として山古志DAOが存在し、プラットフォームに入ってきた多くの人々が山古志デジタル村民としても参画することで、多様で多才なデジタル村民1万人によって支えられる山古志DAOを目指す。



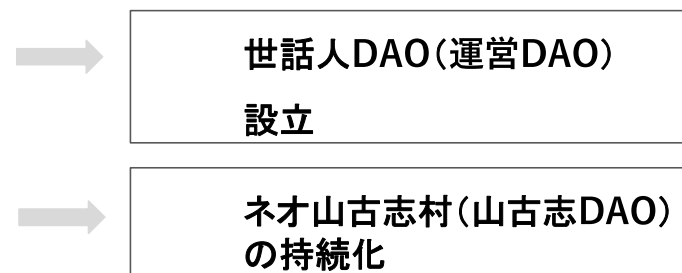
## ネオ山古志村(山古志DAO)の 組織化

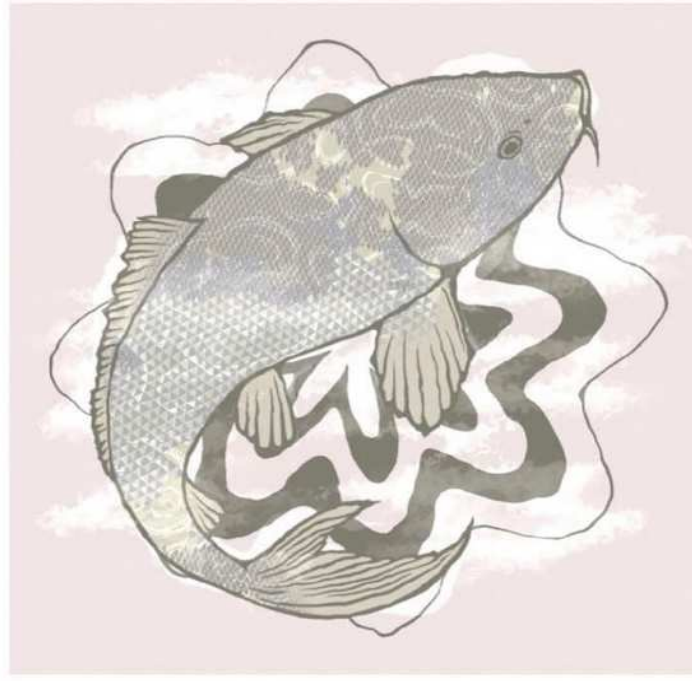
### 山古志DAOとして、 持続的に自立した運営を実現するための組織化

コミュニティメンバーの方々の声から生まれた“山古志DAO”をより明確な存在とするために、DAOの進むべき方向性や、意思決定のあり方、資金の管理方法などを確立していく。自律した組織運営を実現するとともに、持続的なモデルへと転換していく。

なお、今まで通り山古志DAOメンバーが楽しく思い思いに過ごせる環境を重視し、参加者の主体性によって多くの方々が楽しんで関わる事ができるDAOを目指していく。

そのために、新しい仕組みとして山古志DAOの運営に関わりたい人々による“運営DAO”を発足する





ぜひ私たちの仲間に!!

